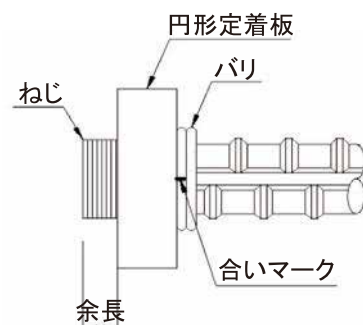


選べる2種類の施工法 ～配筋上の微調整に対応～

【手締め＋マーキング】

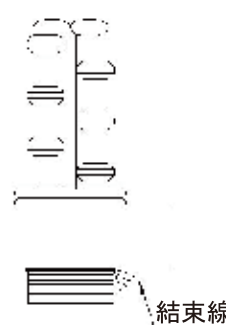
円形定着板をバリにあてがい手で強く締め込む。



※余長が3mm以上であることを確認。

【結束締め】

円形定着板の脱落防止として結束線で締め付ける。



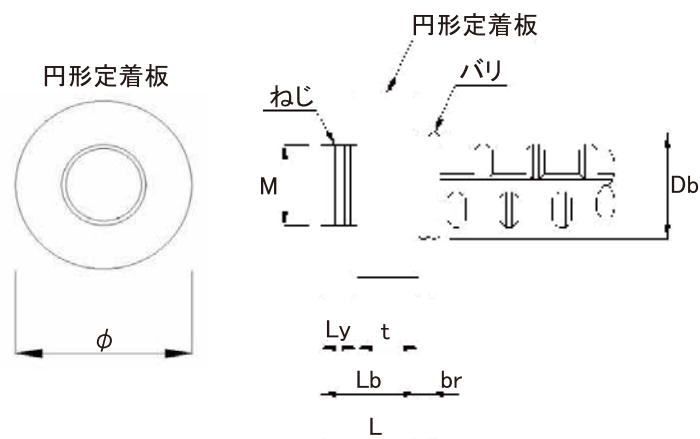
EG定着板の寸法

(単位:mm)

鉄筋 呼び名	ね じ						円形定着板			
	呼び径	ねじ長	余長	バリ幅	バリ直径		直径	板厚	支圧面積	定着板内面と ねじ外端間
	M	L	Ly	br	最大Db	バリ抑え (オプション)	φ	t	mm ²	Lb
D13	M16	36	17	5	23	—	36	14	891	31
D16	M20	36	14	6	28	24	40	16	1,058	30
D19	M24	36	11	7	32	28	48	18	1,523	29
D22	M27	39	12	7	35	31	55	20	1,989	32
D25	M30	43	13	8	39	35	63	22	2,610	35
D29	M33	46	14	8	43	38	70	24	3,206	38
D32	M39	50	15	9	51	44 ※2	80	26	4,233	41
D35	M42	55	16	10	53	48	85	29	4,718	45
D38	M45	58	17	10	58	52	95	31	5,948	48
D41	M48	62	18	11	63	57	100	33	6,514	51
D51	※1	71	20	12	73	—	125	39	10,245	59

※1 SD390以下の場合:M56、SD490の場合:M60

※2 SD390以下の場合はバリ直径を42mm(ねじ径M36)とすることが可能です。



摩擦圧接

定着ねじは、『摩擦圧接』によって鉄筋に接合されます。
『摩擦圧接』とは鉄筋端部にねじを所定の圧力下で高速回転させることによる摩擦熱で加熱し、アプセットで接合する方法です。
人的阻害要因を排除した高品質の接合方法です。



合同製鐵の機械式定着金物

EG定着板

■ サイズ:D13～D41

■ 鋼種:SD295～SD490

■ コンクリート強度:Fc21～60N/mm²
(120N/mm²まで対応可能)



一般社団法人建築構造技術支援機構SABTEC評価12-05
特許 第3512360号 特許 第3850776号

極めて簡単な施工

- 手締めで施工が可能
- コンパクトで納まりが良好

配筋作業の省力化

- 品質管理が簡単
(ネジの余長が3mm以上あることを確認するだけ)

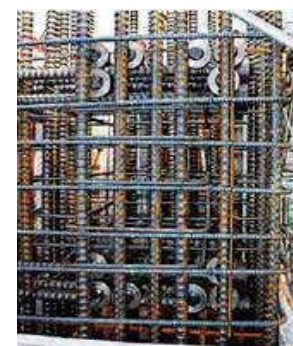


環境にやさしい工法

- グラウトなどの注入が不要
- 産廃の発生がない
- 現場での火気取扱いはない

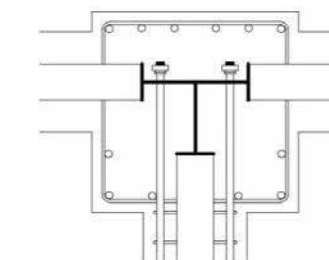
SRC造の施工に最適

- 脱着可能な定着板はSRC造の施工に威力を発揮



充実のサポート体制

- 設計指針に基づき事前に図面検討する技術支援方針
- 小口輸送にも対応する柔軟な供給体制
(※納期によってはトラック手配できない場合があります)



実験データ増加に伴う適応範囲の拡大

【構造種別】

- ①鉄筋コンクリート造
- ②鉄骨鉄筋コンクリート造
- ③柱RC梁S混合構造
- ④柱SRC梁S混合構造
- ⑤プレストレストコンクリート造
- ⑥上記のプレキャストコンクリート造

【使用箇所】

- ①梁主筋および柱主筋の柱梁接合部への定着
- ②梁主筋の梁への定着
- ③柱主筋の基礎部への定着
- ④基礎梁主筋の基礎部への定着
- ⑤壁筋の梁、柱および壁への定着
- ⑥小梁主筋およびスラブ筋の梁への定着
- ⑦アンカーボルトの定着

資料請求・お問い合わせ先

◎ 合同製鐵株式会社

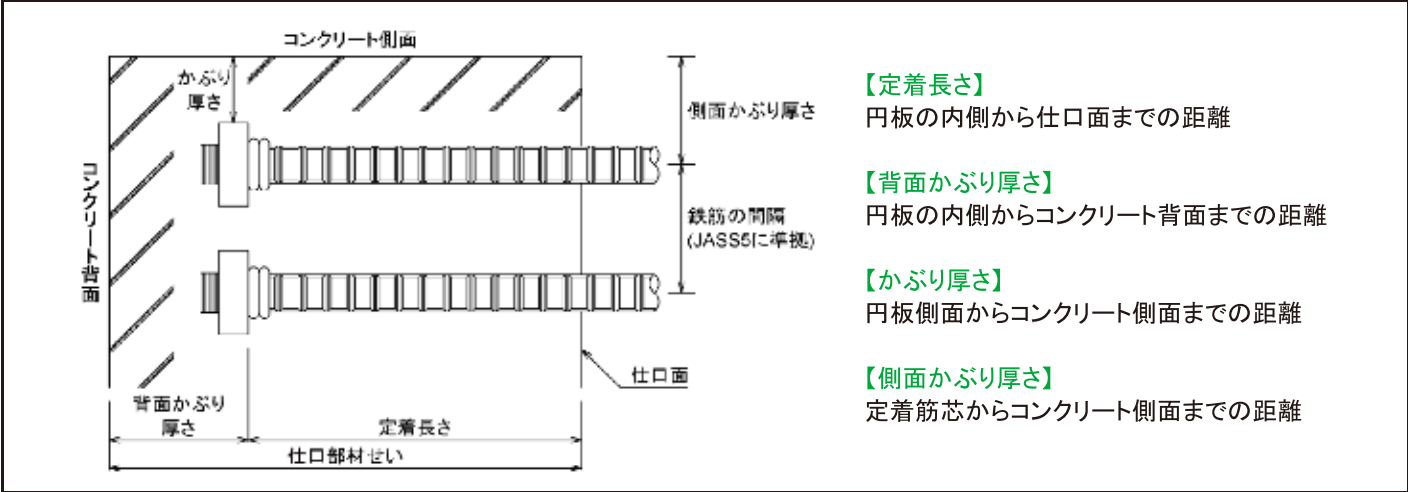
<販売委託先(東日本地区)>
関東デバースチール(株)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1 丸の内中央ビル9F TEL.03-5218-7093 FAX.03-5218-7085

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-2-2 JPタワー大阪19階 TEL.06-6343-7669 FAX.06-6343-7665

URL: <http://www.godo-steel.co.jp/seihin/eg.html>

■構造規定



■構造規定一覧表(鉄筋コンクリート構造、終局強度設計) コンクリート強度:Fc21~Fc60N/mm²

接合部の種類	ト形接合部	十字形接合部	T形接合部	L形接合部	最下階柱・基礎梁接合部
接合部横補強筋比	0.2%以上	0.3%以上 (接合部被覆率50%以上の両側直交梁付きの場合は0.2%以上)			0.2%以上
梁主筋定着長さ	$\ell_{ao}^{(注1)}$ 以上、 12db以上、かつ、 $X^{(注2)} \cdot Dc$ 以上 ただし、 柱が引張軸力を受ける場合は、 $\ell_{ao}^{(注1)}$ 以上、 15db以上、かつ、 (3/4)Dc以上	$\ell_{ao}^{(注1)}$ 以上、 12db以上、かつ、 $X^{(注2)} \cdot Dc$ 以上	上端筋: 投影定着長さは $\ell_{ao}^{(注1)}$ 以上、 16db以上、かつ、 (3/4)Dc以上 下端筋: $\ell_{ao}^{(注1)}$ 以上、 14db以上、かつ、 (3/4)Dc以上	上端筋: 投影定着長さは $\ell_{ao}^{(注1)}$ 以上、 16db以上、かつ、 (3/4)Dc以上 下端筋: $\ell_{ao}^{(注1)}$ 以上、 14db以上、かつ、 $X^{(注2)} \cdot Dc$ 以上	上端筋: $\ell_{ao}^{(注4)}$ 以上、 14db以上、かつ、 (3/4)Dc以上 下端筋: $\ell_{ao}^{(注4)}$ 以上、 16db以上、かつ、 (3/4)Dc以上
柱主筋定着長さ	$\ell_{ao}^{(注1)}$ 以上、16db(耐震壁架構の場合は12db)以上、かつ、(3/4)Dg以上				JASS5のフック付き 定着長さL2h以上、 かつ、基礎梁下端筋 の下部まで延長する
柱頭補強筋比	0.25%以上	0.25%以上	0.25%以上	0.25%以上	規定なし
梁主筋の側面 かぶり厚さ	3db以上	3db以上	3db以上	3db以上	3db以上
梁主筋の背面 かぶり厚さ	4db以上、ただし $\ell_{ag} \geq 15db$ の場合は3db以上としてもよい				
柱主筋の側面 かぶり厚さ	2db以上	2db以上	2db以上	2db以上	2db以上
柱主筋の背面 かぶり厚さ	3db以上、ただし耐震壁架構の場合は 定着金物のかぶり厚さがJASS5の設計かぶり厚さを満足すること				規定なし

注1) 設計指針の式(8.1)の必要定着長さです。注2) 性能検定方式では $X=(2/3)$ 、技術基準方式および置換え方式では $X=(3/4)$ です。
注3) 性能検定方式では $X=(2/3)$ 、技術基準方式、置換え方式、段差梁付き十字形接合部および上階柱絞り十字形接合部では $X=(3/4)$ です。
注4) 設計指針の式(14.1)の必要定着長さです。

- ※1 db:定着筋直径(呼び名に用いた数値)、Dc:柱せい、Dg:梁せい、 ℓ_{ag} :梁主筋定着長さ
- ※2 「性能検定方式」は、設計指針の4章～8章の終局強度設計の検定を指し、「技術基準方式」は、設計指針の10章(1)1)の技術基準解説書に準拠した終局強度設計の検定を指します。「置換え方式」は、設計指針の10章(1)2)に示すように、技術基準解説書に従い、一貫構造計算プログラムによって折曲げ定着による柱梁接合部のせん断検定を行い、設計指針の10章(2)の構造規定を満足することを確認し、折曲げ定着を機械式定着に置き換える検定を指します。ただし、「置換え方式」の場合、T形接合部およびL形接合部の柱主筋定着長さは、上表の規定値に加えて、設計図書に示された折曲げ定着による柱主筋の投影定着長さ以上が確保されていることが必要です。
- ※3 上階柱絞りT形接合部については、上下階柱外面が一致する場合、梁下端筋の定着長さは下階柱内面、梁上端筋の定着長さは上階柱内面を定着起点とし、それぞれ設計指針8.1節(1)の規定を満足するものとします。上下階柱内面が一致する上階柱絞りT形接合部については、梁上端筋および下端筋定着部は、上下階柱内面を定着起点とし、設計指針8.3節のL形接合部における梁主筋定着部に準じて設計します。ただし、 $Dc2$ (上階柱せい) $\geq L_a$ (JASS5による大梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ)を満足する場合、設計指針8.1節のT形接合部における梁主筋定着部に準じて設計しても構いません。上階柱絞り十字形接合部については、上階柱面の両側または片側が絞られた場合、梁下端筋定着長さは下階柱面、上端筋定着長さは上階柱面を定着起点とし、それぞれ設計指針8.1節(1)に準じ、式(8.1)の必要定着長さ ℓ_{ao} 以上、12db以上、かつ、(3/4)Dc以上とします。
- ※4 上表の規定のほかに詳細な規定がございますので、必ず設計指針をご参照ください。
- ※5 許容応力度設計の構造規定は技術基準方式と同じですが、詳細は設計指針をご参照ください。
- ※6 EG定着板工法が採用できない場合もございますので、必ず事前に設計指針に基づく検討が必要です。
- ※7 上表の規定値よりも設計値の方が大きい場合は、設計値を採用することになると思いますが、その場合は、必ず設計者様にご確認ください。
- ※8 ピロティ部に使用する場合、技術基準解説書 付録1-6の設計条件を満足することを前提とします。

■配筋例

